

お知らせ

INFORMATION

No.2026-15

2026 年 8 月

病体生理研究所

婦人科子宮頸部細胞診 報告内容一部変更のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

さて、当研究所では、婦人科子宮頸部細胞診の報告について、ベセスダ分類による報告への統一を検討してまいりました。

しかしながら、日頃ご利用いただいております施設様より、クラス分類の継続を希望されるご要望を多数いただきました。そのため、クラス分類の併記をご希望される施設様につきましては、引き続きクラス分類を併記して報告いたします。

なお、クラス分類を併記する場合、ASC-US 判定時の報告については、クラス分類の表記を「Class II／Ⅲa」に統一いたします。また、従来併記しておりました日本語表記の「陰性」及び「疑陽性」は廃止いたします。

何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

【変更項目】

細胞診検査 婦人科材料

- ◆ 膣及び円蓋部 (V) …検査案内 P.112
- ◆ 子宮頸管擦過 (EC) …検査案内 P.112
- ◆ 自己採取細胞診 …検査案内 P.112
- ◆ 婦人科 LBC (Thin Prep 法) …検査案内 P.112

〈膣部・子宮膣部・子宮頸部・膣断端〉

【変更内容】

1. 婦人科子宮頸部細胞診における ASC-US 判定時のクラス分類について、これまでの「Class II」および「ClassⅢa」の併記を廃止し、「**Class II／Ⅲa**」の統一表記に変更いたします。
2. 婦人科子宮頸部細胞診報告書において、ASC-US 判定時に併記していた「**陰性**」および「**疑陽性**」の日本語表記を廃止いたします。

※詳細につきましては、裏面をご参照ください。

《変更開始日》：2026 年 9 月 1 日（火）受付分より

一般財団法人東京保健会 病体生理研究所

〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町26-2 電話 03-3956-4101（代表）

【ベセスダシステム準拠 子宮頸部細胞診報告様式】

扁平上皮細胞系

ベセスダ表記	表記の説明	推定病変	従来の クラス判定
NILM	陰性	非腫瘍性所見、炎症	I、II
ASC-US	意義不明な異型扁平上皮細胞	軽度扁平上皮内病変疑い	II-IIIa
ASC-H	HSIL を除外できない 異型扁平上皮細胞	高度扁平上皮内病変疑い	IIIa-b
LSIL	軽度扁平上皮内病変	HPV 感染軽度異形成	IIIa
HSIL	高度扁平上皮内病変	中等度異形成 高度異形成 上皮内癌	IIIa IIIb IV
SCC	扁平上皮癌	扁平上皮癌	V

*ASC-US判定時（赤枠）のクラス判定を「**Class II/IIIa**」に統一するとともに、
「陰性」、「疑陽性」の日本語表記を廃止させていただきます。

【クラス分類を併記する場合の報告内容イメージ】

変更前

テスト フジノカ3

様

検査材料：子宮頸部LBC

標本の適否
適正

判 定

ASC-US

（意義不明な異型扁平上皮細胞）

Class II

陰性

HPV検査又は6ヶ月以内の再検

変更後

テスト フジノカ4

様

検査材料：子宮頸部LBC

標本の適否
適正

クラス判定の表記を
「**Class II/IIIa**」
に統一します。

判

ASC-US

（意義不明な異型扁平上皮細胞）

Class II/IIIa



HPV検査又は6ヶ月以内の再検

「陰性」
「疑陽性」
の表記を廃止します。

以上